

序

紙パルプ工業において、最終工程である仕上工程は、その名称にあるごとく製品化の仕上げを行うところであり、重要な工程です。

パルプ、抄紙、塗抹、加工工程の発展は目を見張るばかりであり、高速化、広幅化、連続化、自動化され、コンピュータ制御のもと、人の介在する余地が少なくなり、生産性も飛躍的に増大しています。

その量的、品質変化を一手に引き受け、市場に製品として送り出す仕上工程も、近年大きく変化していますが、断裁、選別、包装のセクションでは、まだ、設備と人手とスペースを多く要している面もあります。今、仕上工程の自動化、省力化、安定した品質を作り出すことは、コストダウンの点で不可欠の状況です。

ここでは、各仕上工程の基本を述べるとともに、現在の、仕上げ品質の維持向上、自動化の推進状況、将来展望なども加えてみます。

既に、数多くの紹介、文献などが出されておりますが、この書では、現場の操業面を主体にとらえていきます。関係諸氏が更に仕上工程の向上に進んでいただければ、幸甚と考える次第です。

平成 12 年 11 月

三菱製紙株式会社 杉山 正夫